

5月になった。新緑の季節である。大型連休も終わり、ここから夏休みまで一気に進むことになる。きれいな花々による競演も一通り終わった感がある。このタイミングに合わせたかのように、山々は緑に包まれる。気温の上昇とともに、木々が溢れるような緑に姿を変える。同じ緑でも濃いものもあれば、薄いものもある。朝から晴れている日には、緑が一層映える。

このエネルギーに満ち溢れた新緑の5月が好きである。4月からスタートした生活は、大型連休までの期間で、徐々に慣れるとともに軌道に乗る。一度、連休による休養を挟み、さあこれからというときである。5月が、ことの成否を握るのである。

山々の緑は、がんばる者を応援するかのように、一気に見事な色に染まる。緑の濃淡だけでも、あれだけきれいなのである。自然がつくり出すものには、何ものにも代えがたいすばらしさがある。空気が澄んだ朝は、それはそれは見事である。そして、5月の一か月間で、緑が湧き出るように深まっていく。

以前、学級担任をしていたときに、「学級通信」を出していた。悩むのは、そのタイトルである。小学校のときには、「かがやき」だった。中学校に移ってからは、「薫風（くんぷう）」とした。薫風とは、5月に吹くさわやかな風のことである。

ところが、どうも5月が薫風の季節ではなくなってきたように思う。いささか暑い。5月になると、熱中症の心配が始まる。早すぎないか。春が短すぎる。日本には、四季がある。それぞれによさや味わいがある。春と秋があるからこそ、夏と冬が際立つのである。春が短すぎはしないか。秋も、どんどん短くなっている。もっとゆっくりじっくりと春と秋を味わいたい。

薫風の5月が、多少暑くなくても、山々の緑や街路樹の緑は、変わらずにきれいである。福島盆地を緑色で覆うかのように、日に日に緑を広げていく。幼稚園児も小学生も中学生も、そして高校生もこの5月を充実したものにしてほしい。ものごとには、がんばりどころがある。ここからの3週間あまりが重要である。

山々は、毎年、同じような時期に緑に包まれる。その年により、気温や陽気に違いはあれど、必ず見事な新緑の姿を見せてくれる。人は、そこからエネルギーをもらう。自然と一体となって生きていく。今までは、こんなことを考える余裕がなかったように思う。毎年、新緑を味わってはいるのだが、その味わい方が変わってきたようだ。少しばかり暑くなくても、5月はやはりいい季節であることに変わりはない。